（９） だいこん

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
1 軟腐病 *Pectobacterium carotovorum*	1.連作を避ける。 2.窒素質肥料の過剰施用を避け、適正施肥をする。 3.排水を良好にする。 4.発病株は早期に処分する。 5.播種後から30日間の防虫ネット被覆が有効である。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本病対象に防除を実施しているところでは、黒斑細菌病の発生が少ない。	本葉８～９枚のころから２～３回	31	スターナ水和剤
			41	マイコシールド
			M1	コサイド３０００
			M1	Ｚボルドー
			24･31	(混)カセット水和剤
			24･M1	(混)カスミンボルドー
			24･M1	(混)カッパーシン水和剤
			31･M1	(混)ナレート水和剤
			M1･M1	(混)キンセット水和剤
2 べと病 *Peronospora parasitica*	1.排水を良好にする。 2.肥切れをさせない。 3.肥切れしたものには尿素２％を散布する。	発病初期から	M1	サンボルドー
3 白さび病 （ワッカ症） *Albugo macrospora*	1.排水を良好にし、過湿を避ける。 2.地下水位の高い圃場では高うね栽培を行う。 3.密植したり、過繁茂にならないようにする。 4.窒素過多にしない。 5.マルチ栽培を行う。 6.被害茎葉は集めて圃場外に持ち出し、処分する。	播種前	4･11	ユニフォーム粒剤
		発病初期	21	ランマンフロアブル
			39	ハチハチ乳剤
			M1	コサイド３０００
			M1	Ｚボルドー
			M5	ダコニール１０００
			24･M1	(混)カスミンボルドー
			24･M1	(混)カッパーシン水和剤
4 亀裂褐変症 （リゾクトニア菌）	1.排水を良好にする。 2.深耕、有機物施用、輪作等により、土壌の物理性改善を行う。	播種前	14	リゾレックス粉剤
		生育期	U18	バリダシン粉剤ＤＬ
5 アブラムシ類 （モザイク病 ＣＭＶ ＴｕＭＶ ＣａＭＶ）	1.抵抗性品種を用いる。 2.播種量を増し、被害苗は早期に間引きして処分する。 3.播種後から30日間防虫ネット(１㎜目合以下)で被覆する。 4.シルバーポリマルチ、シルバーテープをはる。	播種前	1B	オルトラン粒剤
			1B	ジェイエース粒剤
		播種時	4A	モスピラン粒剤
			4A	ダントツ粒剤
		発生初期	3A	アディオン乳剤
			3A	アグロスリン水和剤
			3A	サイハロン水和剤
			3A	サイハロン乳剤
			3A	スカウト乳剤
			3A	テルスター水和剤
			3A	マブリック水和剤２０
			3A	トレボン乳剤
			3A	トレボンＥＷ
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	モスピランＳＬ液剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			14	リーフガード顆粒水和剤
			21A	ハチハチ乳剤
			1B･3A	(混)ハクサップ水和剤
6 タネバエ	1.成虫は有機物の腐敗臭に誘引されるので注意する。 2.前作の残根等を処分する。	播種時	1B	カルホス粉剤
			3A	フォース粒剤
		生育期	4A	スタークル粒剤
			4A	アルバリン粒剤
7 カブラハバチ	1.密植を避け、風通しを良くするなど、軟弱徒長にならないようにする。 2.アブラナ科雑草の除草に努める。	発生初期	4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4E	フィールドマストフロアブル
			14	パダンＳＧ水溶剤
			22A	ファイントリムＤＦ
			22A	トルネードエースＤＦ
			22B	アクセルフロアブル
			28	プレバソンフロアブル５
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアＳＣ
			UN	プレオフロアブル
			3A･1B	(混)ハクサップ水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

だいこん

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
8 キスジノミハムシ	1.播種後から間引き完了まで、防虫ネット（0.8mm目合以下）で被覆する。 2.アブラナ科野菜の連作を避ける。	播種時	3A	フォース粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		発生初期	3A	フォース粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4E	フィールドマストフロアブル
			5	スピノエース顆粒水和剤
			14	パダンSG水溶剤
			15	アタブロン乳剤
			21A	ハチハチ乳剤
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアSC
			1A･1B	（混）ランダイヤ粒剤
			4E･28	(混)フェニックスマストフロブル
9 ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）	1.秋播栽培では早播きしない。 2.播種後から間引き完了まで防虫ネット（２㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.８～９月の高温、乾燥時に被害が多い。 2.ハチハチ乳剤はナモグリバエにも登録がある。	本葉出始めから１本立までの間に３～４回	4E	フィールドマストフロアブル
			6	アファーム乳剤
			14	リーフガード顆粒水和剤
			21A	ハチハチ乳剤
			22A	トルネードエースDF
			22A	ファイントリムDF
			22B	アクセルフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	プレバソンフロアブル５
			28	ヨーバルフロアブル
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアSC
			6･15	(混)アファームエクセラ顆粒水和剤
10 モンシロチョウ（アオムシ）	1.幼虫は見つけしだい捕殺する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●播種前 1.オルトラン粒剤、ジェイエース粒剤を散布すると、ハイマダラノメイガの発生が少なくなる。 ●若齢幼虫期 1.コテツは幼苗期は薬害のおそれがあるので、定植活着後８葉期以降に使用する。	播種前	1B	オルトラン粒剤
			1B	ジェイエース粒剤
		若齢幼虫期	4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4E	フィールドマストフロアブル
			5	スピノエース顆粒水和剤
			6	アファーム乳剤
			11A	トアロー水和剤CT
			11A	トアローフロアブルCT
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクDF
			11A	フローバックDF
			11A	エコマスターBT
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			11A	ジャックポット顆粒水和剤
			13	コテツフロアブル
			14	リーフガード顆粒水和剤
			15	ノーモルト乳剤
			15	アタブロン乳剤
			15	マッチ乳剤
			18	ファルコンフロアブル
			21A	ハチハチ乳剤
			22A	トルネードエースDF
			22A	ファイントリムDF
			28	プレバソンフロアブル５
			28	ヨーバルフロアブル
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアSC
			UN	プレオフロアブル
			5･18	(混)ファルコンエースフロアブル
			6･15	(混)アファームエクセラ顆粒水和剤
11 ヨトウムシ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	若齢幼虫期	11A	トアロー水和剤CT
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	エスマルクDF

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
		若齢幼虫期	11A	フローバックDF
			11A	エコマスターBT
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			15	ノーモルト乳剤
			15	アタブロン乳剤
			18	ファルコンフロアブル
			22A	トルネードエースDF
			22A	ファイントリムDF
			22B	アクセルフロアブル
			28	プレバソンフロアブル5
			30	ブロフレアSC
			UN	プレオフロアブル
12 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	若齢幼虫期	15	アタブロン乳剤
			4E･28	(混)フェニックスマストフロブル
13 コナガ	1.紫外線反射資材を用いると、 成虫の飛来を軽減することができる。 2.播種後から間引き完了までは､防虫ネット（２㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●若齢幼虫期 1.コテツフロアブルは幼苗期は薬害のおそれがあるので、定植活着後８葉期以降に使用する。	播種時	4A	モスピラン粒剤
		若齢幼虫期	4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	モスピランSL液剤
			4E	フィールドマストフロアブル
			5	スピノエース顆粒水和剤
			6	アファーム乳剤
			11A	トアローWT剤C
			11A	トアローフロアブルCT
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクDF
			11A	フローバックDF
			11A	エコマスターBT
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			11A	ジャックポット顆粒水和剤
			13	コテツフロアブル
			14	パダンSG水溶剤
			14	エビセクト水和剤
			14	リーフガード顆粒水和剤
			15	ノーモルト乳剤
			15	マッチ乳剤
			15	カスケード乳剤
			15	アタブロン乳剤
			21A	ハチハチ乳剤
			22A	トルネードエースDF
			22A	ファイントリムDF
			28	ヨーバルフロアブル
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアSC
			34	アベンジャーフロアブル
			34	ファインセーブフロアブル
			UN	プレオフロアブル
			4E･28	(混)フェニックスマストフロブル
			5･18	(混)ファルコンエースフロアブル
			6･15	(混)アファームエクセラ顆粒水和剤
14 ネキリムシ類	1.被害株周辺土中の幼虫が潜む穴を見つけ、捕殺する。 2.作付け前の圃場の除草処理を徹底する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.カルホス微粒剤Ｆを処理を実施したところでは、タネバエの発生も少ない。	播種時	1A･1B	(混)ランダイヤ粒剤
		播種時 または定植時	1B	カルモック
		播種時～ 生育初期	1B 3A	カルホス微粒剤F ガードベイトA
		生育初期	22B	アクセルベイト
15 ネグサレセンチュウ	1.被害株の間引きを行う。 2.イネ科作物との輪作を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2.ディ・トラペックス油剤はセンチュウ類に登録がある。	土壌消毒	8F	NCS
			8F	バスアミド微粒剤
			8F	ガスタード微粒剤
			8A･8F	(混)ディ・トラペックス油剤
			8A･8B	(混)ソイリーン
		播種前	1A	バイデートL粒剤
			1B	ネマトリンエース粒剤